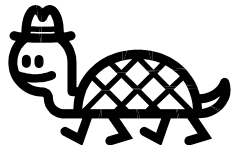
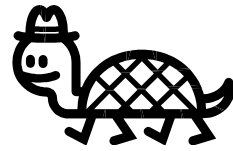


亀山市協働事業事例集





目次



はじめに	1
これまでの協働事業	2
①『亀山に伝わる古代伝説継承事業』	
②『みんなで作ろう避難所ケータイ充電ツール事業』	
③『～未来へ羽ばたく子どもたち～坂下天文観測施設オープン記念事業』	
④『東海道五十三次 関宿四十七番札「関宿かるた」事業』	
⑤『安楽川保全事業』	
⑥『「あなたとふれあい映画会～笑い、涙、そしておしゃべり～」事業』	
⑦『ロマンとそろばん研究プロジェクト事業』	
⑧『井田川小学校こどもぼうさいし育成モデル事業』	
⑨『郷土芸能活性化推進事業』	
⑩『ため池の外来魚駆除・希少種保全とその維持管理促進協働事業』	
⑪『アート亀山プロジェクト』	
⑫『亀山の資源「みつまた」を活かした観光検討事業』	
おわりに	14
資料	15

はじめに

亀山市は、魅力あるまちづくりに向けて、行政だけでなく、市民活動団体や自治会、コミュニティといった地域の団体が、それぞれの特性を活かし、様々な分野で活発に社会貢献に取り組んでいます。

地域の公共サービスの多様な担い手が、それぞれの持ち味を生かしながら対等な立場で協働することで、私たちのまちに、きめ細かいサービスが広がり、より暮らしやすいまちづくりが進みます。

亀山市では、協働を進める具体的な施策として平成20年度より協働事業提案制度を実施しています。協働事業提案制度とは、市民と行政の多様なアイデアを提案する窓口を設置し、事業化できるものは協働で事業化していくためのしくみです。

この協働事業提案制度は、公共サービスの質の向上、市民活動団体の事業力強化、市民と行政の協働意識の構築、公共の利益を目的として行っています。また、対等の意識をもって事業をつくりあげていくもので共催、後援、事業協力、実行委員会、アダプト制度、委託、補助の形態が協議の場で決定されています。

この事例集は、これまでに取り組まれた様々な協働事業提案の事例を紹介することで、協働に対する理解を深めていただき、協働を身近なものに感じていただくために作成しました。

事業を実施する主体が、同じ目的に向かってどのように事業が行われ、どのような成果があったかをお読みとりいただけると幸いです。



公開プレゼンテーションの様子

① 亀山に伝わる古代伝説継承事業



【提案の目的】

劇団「CAME」が演出したミュージカル「白鳥伝説」を多くの市民に知ってもらい、亀山のブランドとして語り継承する。

【提案の内容】

亀山市文化会館を拠点に上演し、亀山市に伝わる伝説を継承する。行政の役割：団員募集、参加者の呼びかけ、舞台装置の援助金の要請。

提案者：劇団「CAME」

相手方：教育委員会 まちなみ・文化財室

提案型：市民提案

実施年度：平成21年度

協働の形態：共催

協議
後

事業の目的

多くの人が亀山市の歴史文化遺産（ヤマトタケル、オトタチバナヒメ、白鳥伝説）を見て、聞いて、理解できるようにする。

事業の内容

白鳥伝説について、見て、聞いて、学べる（学習できる）DVDを作成。DVDの内容は、亀山市内の白鳥伝説に関する遺跡紹介と白鳥伝説ミュージカルとし、学校や地域に貸し出しする。

役割分担

■市民の役割

- ・白鳥伝説ミュージカルの撮影
- ・映像の編集、DVD制作

■行政の役割

- ・DVD作品のシナリオ作成、監修
- ・白鳥伝説に関わる遺跡等の映像データの提供



事業の成果

このDVDの作成のため、ミュージカルを何度も公演した。このことにより、多くの市民にヤマトタケルについて理解してもらうことができた。

協働の効果

協働で事業を実施することにより、亀山市の歴史文化遺産である白鳥伝説が多くの人に理解してもらえるようになった。

また、劇団関係者に、白鳥伝説の内容や地域との関係についてより深く理解していただけた。

②みんなで作ろう避難所ケータイ充電ツール事業



提案者：防災減災チャレンジャー

相手方：危機管理室

提案型：市民提案

実施年度：平成21年度

協働の形態：共催

【提案の目的】

大地震等での避難所生活での情報の確保を図り、生活の維持と早期の復旧を目的とする。

【提案の内容】

当面不要の車両のバッテリーを避難所に持ち込み、避難所一箇所あたり同時に10台、1日(18時間)で180台のケータイを充電できる装置を、市民(中高生含む)で製作し、同時にこのツールの使用法もマスターする。なお、この充電ツールセットは、市内15箇所の避難所に非常用具として設置する。(5セットを予備として計20セットを製作)

協議
後

● 事業の目的 ●

市民が、大規模災害時に安否確認や生活情報を入手するための手段を確保し、日頃から備えること(防災・減災)の重要性に気づいてもらうきっかけづくりをする。

● 事業の内容 ●

亀山市の総合防災訓練において、子どもを対象に携帯充電装置の作成(指導)を行った。また、事業実施に向け地域と協議を行った。

● 役割分担 ●

■ 市民の役割

- ・事業(充電装置)の説明・充電装置作成にあたっての材料調達及び指導

■ 行政の役割

- ・地域住民への周知・事業実施場所の提供



● 事業の成果 ●

平成21年度に加太地区で開催された市総合防災訓練では、提案団体指導のもと子ども自らがケータイ充電器を製作し、ツール作製が難解ではないこと、また、ツールとしての重要性を認識してもらえた。市が行っている防災出前講座などでの反響効果も大きい。

● 協働の効果 ●

「救出・救助」という観点からみた一般的な防災資機材(テント・のこぎり・チェーンソー等)の確保だけではなく、住民相互の安否確認や大規模災害発生時には長期化することが予測される避難所生活等において、生活情報を入手するためのツールとしての重要性に気付いてもらったのではないと思う。行政にはない、市民(特殊的な技能をもった方)の着眼点であると評価するとともに、市総合防災訓練や1ヶ月に数回ベース(昨年度実績 → 36地域)で実施される地域での各種訓練・防災出前講座等においてアピール(啓発)することを基本として、引き続き協働で行っていきたい。

③～未来へ羽ばたく子どもたち～

坂下天文台観測施設オープン記念事業



【提案の目的】

子どもたちに大きな夢を持ってもらい、生きる喜びや生命の不思議などを感じてもらい思いやりの心を養う。そして、学校や家庭、地域など子どもたちを取り巻く媒体の相互連携の強化を図る。

【提案の内容】

従来、市民活動団体が行ってきた季節の星空観測や星祭に加え、必要があればさらに調査や研究を行う。また、記念講演を開催する。

子ども天文クラブを形成し、活動、体験、研究を行う。また、体験を通して学んだことの発表をする。

提案者：坂下星見の会

相手方：教育委員会 生涯学習室

提案型：市民提案

実施年度：平成21年度

協働の形態：共催、事業協力

協議
後

事業の目的

亀山市内外の人々に、星空や天体観測の魅力を紹介し、星がきれいに見える坂下や天体観測施設が地域（亀山市）の資源であることを周知すると共に、天体に関する市民の意識を高める。

事業の内容

5月に未来宇宙探検隊結団式、春の星空観察を開催。6月に地球温暖化防止対策事業として、廃油キャンドルづくりを開催。7月にプラネタリウム見学、日食観察を開催。8月に夏の星空観察を開催。9月に望遠鏡作り、月面観察を開催。10月に秋の星空観察を開催。11月に科学の祭典へ参加、名古屋科学館見学を実施。12月に星座早見盤の使い方、冬の星座講座を開催。1月～2月は発表会の準備を行い、3月に発表会を開催した。

役割分担

■市民の役割

- ・安定的かつ効果的な運営・事業実施に必要な調整
- ・人材確保・行政に対する知識等の提供

■行政の役割

- ・市民への周知・会に対する知識等の提供・会に対する助言



事業の成果

天文台オープンに伴い、天体観測運営スタッフを募集したところ、16名のスタッフが集まった。10日間の研修の後、4月以降の天文台使用申込者に対し、天体観測補助を行っている。

天文台の名称を「童夢（どーむ）」とし、子どもたちが親しみの持てる名称とした。

協働の効果

34人（親15人、子19人）の未来宇宙探検隊が、1年間の探検活動を通して学んだことや、感じたことを天文台オープン記念イベント（亀山市文化会館で実施）で発表することができた。また、年間活動を通じて、殆どの隊員が出席をしており、坂下星見の会が考案した活動内容に興味を持って参加していたことがわかった。

④東海道五十三次 関宿四十七番札

「関宿かるた」事業



提案者：NPO「東海道関宿」

相手方：教育委員会 まちなみ・文化財室

提案型：市民提案

実施年度：平成21年度

協働の形態：共催

【提案の目的】

東海道五十三次の中で唯一、重要伝統的建造物群保存地区である関宿のまちなみを遺す意識を共有する必要がある。そのために関宿に関する知識等を深めるための手段として「関宿かるた」を制作し、歴史文化を体感的に継承し、地域づくりの担い手へと成長させる。

【提案の内容】

関宿の歴史文化や言い伝えなどを素材とした「関宿かるた」を制作し、各学校においてかるた大会を実施する。また、「関宿ガイドブック」を作成する。

協議
後

事業の目的

「関宿かるた」を作成し、かるたを通して関宿の歴史文化を理解していただくと共に、「重要伝統的建造物群保存地区」として後世に伝えるきっかけづくりをする。

事業の内容

「関宿かるた」の制作（普及版を作成）

役割分担

■市民の役割

- ・かるたの句の執筆、編集・かるたの制作における監修協力・普及啓発・かるた遊び等の指導などをサポート

■行政の役割

- ・かるたの絵を制作（発注）・かるたの印刷・かるたガイドブック作成・情報発信・平成21年度に作成物を配布



事業の成果

完成した「関宿かるた」を使った「かるた大会」を開催。その他、市内の各小学校への寄贈などを通じて、「関宿かるた」を普及し、かるたを通して関宿の歴史文化を理解していただくと共に、「重要伝統的建造物群保存地区」として後世に伝えていく物ができた。

協働の効果

NPOとしては、市と協働することで作成したい「関宿かるた」が作成できた。そして、協働で実施することで、「関宿かるた」を、NPOの会だけの物ではなく、市全体の物として広く知ってもらうことができた。

⑤安楽川保全事業



提案者:野登清友会

相手方:環境森林部 環境保全対策室

提案型:市民提案

実施年度:平成21年度

協働の形態:共催

【提案の目的】

雨水が山から川へそして川から海へ通過する過程で汚染されれば、生態系が危なくなり、バランスが崩れる。即ち清流を保つことは地域環境の浄化と一体をなすものであるから自然環境保全について意識付けさせたい。

【提案の内容】

河川や里山の清掃活動の輪を広げ、趣旨をPRしながら子ども会や行政の協力を得て発展させる。

「亀山市ネコギギ保護増殖指導委員会」の方針に従い、ネコギギの棲家が保障できる川づくり事業を行う。また、ネコギギの調査、ネコギギの種の確保できる保護増殖施設設置に向けて努力する。また、「昔の魚を取り戻そう」活動では、川魚の生態や水質の調査を実施し、遡流魚類の魚道設置運動を展開する。「天然アマゴの育成事業」では、純正アマゴの稚魚の放流を行う。

協議後

事業の目的

安楽川がAA河川であることを多くの方に知っていただき、亀山市民の自然環境(川、水、里山)保全の意識を高めることを目的とする。

事業の内容

環境イベントとして、安楽川周辺での川あそび、清掃活動、川の生き物観察等の実施。

役割分担

■市民の役割

環境イベントの運営

■行政の役割

環境イベントの運営



事業の成果

行政と市民活動団体双方について理解ができ、お互い協力をする必要性や親密度が深まった。市との協働事業によるイベントということで、住民の信頼度が高まった。

協働の効果

行政だけで、事業内容を企画するには、発想の限界があり、その部分を地域に根付いた民間団体である野登清友会が地域の特性を加味して事業展開が出来たことは、大きな成果があった。また、川で捕った生き物を直接子どもたちに触らせることができたことは、子どもたちの感性に触れ、「楽しい」の気持ちから、今後さらに川に親しみ「川は生命のゆりかご」であるとの意識に少しでも近づけることができた。

⑥「あなたとふれあい映画会 ～笑い、涙、そしておしゃべり～」事業



提案者：映話ひととき会
相手方：保健福祉部 高齢・障害支援室
提案型：市民提案
実施年度：平成21年度
協働の形態：共催

【提案の目的】

高齢者の多くは交通弱者であるので地域を巡回し、懐かしの映画鑑賞会+αを切り口に高齢者との交流や高齢者間の交流を図り、地域活性化に寄与する。また、心から笑い、感動の涙を流すことは癒しの効果が大きいのので、引きこもりがちな人を呼び寄せ、共に大声で大合唱し、参加者に生きがいを感じてもらいたい。

【提案の内容】

「懐かしの映画鑑賞会+ふれあい交流会」の開催により、地域に出かけて行き、主に、昭和20～30年代及び戦前の「懐かしの映画上映(約1時間半1本)」を実施する。映画鑑賞は、ふれあい交流会に参加してもらうための導入。「ふれあい交流会」では、映画談義や昔話から始まるおしゃべり会、ゲーム(参加者が歌ったり、手足を動かす)、マジック、腹話術等の出し物鑑賞も行う。(約30分から1時間)

協議後

●事業の目的●

協働事業を通じて高齢者が社会参加の機会を増やし、要支援や要介護状態にならないよう交流の場を作り、地域で生きがいをもって暮らせるよう社会参加へのきっかけ作りを行う事で、地域に最大の成果を還元することを目的とする。

●事業の内容●

懐かしの映画鑑賞会とふれあい交流会、PR活動(広報・新聞・CATV・三重TV)。

●役割分担●

■市民の役割

・情報発信・チラシ作成・機材の確保・会計管理

■行政の役割

・情報発信・チラシ作成・消耗品等購入・機材の確保



●事業の成果●

初回開催時に「(地域行事に)めったに来ない人の参加があった」という話をよく耳にした。数回開催した地域(団体)では、1回目よりも2回目に人数が増え、また平成22年度の募集では、2回目を希望する地域(団体)も多数あることから、地域の人々が事業の目的を理解し、積極的に本事業を取り入れるようになった。

●協働の効果●

協働事業を通じて、映話ひととき会のPR活動の方法(情報発信力)、場の雰囲気づくりなどのノウハウを学ぶことができた。また、地域に出向いて行う事業であったので、今後も高齢者福祉施策の重要なポイントとなる「地域とのつながり」ができた。民間では得難い行政の信用力は事業の推進に大きな力となった。行政の情報力、事務処理能力、若きセンス等が活用でき、お互いに学ぶことも多かった。

⑦ロマンとそろばん研究プロジェクト事業



【提案の目的】

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている関宿のまちなみをスケッチし、地域の人々との交流を通じて、美術文化の振興とまちなみの保存意識の高揚を図る。

【提案の内容】

毎年1回関宿で「スケッチコンクール」を開催する。応募された作品は、実行委員会が著作権をもち、市内で作品展を開催する。スタッフとしての労力、企画、その他の仕事はボランティアが担当するが、資金援助を市からお願いしたい。

提案者：関宿スケッチコンクール実行委員会

相手方：文化部 まちなみ文化財室

提案型：市民提案

実施年度：平成22年度

協働の形態：共催

協議
後

事業の目的

文化事業継続のための新たな仕組みのモデル構築を行う。

事業の内容

関宿スケッチコンクールをモデルにし、文化事業の継続運営に関する仕組みづくりを研究する。また、関宿スケッチコンクールを継続運営するにあたり、関宿のまちなみ内で、コンクール入賞・入選作品を常設展示できるギャラリーの設置及び運営の可能性を探る。

役割分担

■市民の役割

- ・協働事業の安定的かつ効果的な運営・必要な調整・人材の確保・専門的な知識やノウハウの提供

■行政の役割

- ・広報・知識やノウハウを提供・情報収集とその提供・地域の方や生活者視点を大切にする



事業の成果

行政と市民団体とで文化事業継続のための共通認識を持つことができた。

協働の効果

町屋ギャラリーの見学等を通じて、スケッチコンクールを継続して開催することだけでなく、そのため（継続開催）の手段としていろいろ考え、目的に向かって共通認識を持てたことが大変良かった。

⑧井田川小学校こどもぼうさいし育成モデル事業



【提案の目的】

現状は、大人を中心として物事が動いているが、子ども目線で安心・安全の亀山をつくっていききたい。

【提案の内容】

①こども防災手帳の発行②「子ども防災士」の認定証の発行③防災教室の実施④認定を受けた子どもに防災グッズを授与する。

提案者：亀山防災ネットワーク

相手方：教育委員会 教育研究室

提案型：市民提案

実施年度：平成22年度

協働の形態：共催

協議
後

事業の目的

井田川小学校において、「子ども防災士」を育成することを通して、亀山市の子どもたちが自分の命を自分で守る知識を身につける。

事業の内容

井田川小学校をモデル校として、小学校4年生から6年生を対象とした“防災クラブ活動”を実施する。クラブ活動では「子ども防災手帳」を使った活動や「防災クイズ」等により防災意識を高め、「子ども防災士」認定証を受け、防災活動への意欲向上を図る。

役割分担

■市民の役割

- ・協働事業の安定的かつ効果的な運営・必要な調整
- ・人材の確保・専門的な知識やノウハウの提供

■行政の役割

- ・学校と市民との連絡、調整
- ・消耗品の提供



事業の成果

受講した児童やその家族にとっては、防災について考える良い機会となり、防災意識が向上した。今後も継続した事業実施（井田川小学校）が決定しており、地道に防災への関心を拡大していく場づくりができた。

協働の効果

子どもの防災意識を高めることに効果的であり、カルタ、クイズなどの子どもにとって楽しめる内容であったため、受講した子どもたちにも好評であった。また、防災に対する具体的な技能を獲得するところまでは至らないが、子どもと家族の間で防災について話し合うきっかけとなり、家庭での防災意識の高まりに寄与することができた。

行政と学校、地域が一体となって共通の課題を認識し、意識向上を図れた。

⑨郷土芸能活性化推進事業



提案室: 文化部 文化スポーツ室

相手方: 亀山市葛葉太鼓保存会

提案型: 行政提案

実施年度: 平成22年度

協働の形態: 共催

【提案の目的】

亀山市の郷土芸能を活性化させ、地域文化として伝承していく事を目的とする。

【提案の内容】

郷土芸能の継承者を育成したい郷土芸能団体(国・県・市の文化財指定を受けている団体を除く)を募集し、継承者を指導する立場の指導者を育成することにより、郷土芸能を継承することの出来るシステムを構築する。

協議
後

事業の目的

葛葉太鼓をモデルに、亀山市の郷土芸能を活性化させ、地域で生まれ育った芸能を後世に継承していくことのできるシステム(仕組み)を構築する。

事業の内容

- ①継承者の育成(新会員の募集、太鼓合宿)
- ②指導者育成(他団体への視察と交流、太鼓の創作)
- ③継承者の募集と育成(指導者育成の全プログラムを通じて、継承システムを構築する。)

役割分担

■市民の役割

- ・協働事業の安定的かつ効果的な運営・必要な調整
- ・人材の確保・知識やノウハウを実施活用する

■行政の役割

- ・広報・知識やノウハウを提供・助言



事業の成果

若い指導者に役割を与えることによって、責任感が生まれ、一層熱心に指導を行うようになった。他団体との交流は新たな刺激となり、自分たちを見直そうという向上心、反省の良い機会となった。また、新規会員募集を目的とした太鼓の体験日には多くの子どもが集まり、一部の子どもは現在も太鼓を継続している。4月の体験日に参加した子ども達の勧誘で見学に来る子どもも何名かおり、新規会員は現在も増加しつつある。

新曲も完成し、今後の葛葉太鼓の新たな魅力となることが予想される。

協働の効果

今回協働したことによって、行政が団体にできること、団体が行政に求めるものを知ることができた。また、団体の活動を客観的、主観的な視点で見ることができ、今後の活動等を検討するのに役立った。さらに、運営委員会を定期的に開き、発生した課題に対して議論したので、問題意識を共有できた。

⑩ため池の外来魚駆除・希少種保全と その維持管理促進協働事業



【提案の目的】

ため池の外来魚駆除・希少種保全と適正な維持管理促進。

【提案の内容】

ため池の水を抜いて外来魚を駆除するとともにため池の維持管理を促進する。

提案者：水辺づくりの会 鈴鹿川のうお座

担当室：環境・産業部 環境保全対策室

提案型：市民提案

実施年度：平成23年度

協働の形態：事業協力

協議
後

● 事業の目的 ●

ため池の外来魚駆除・希少種保全と適正な維持管理促進。

● 事業の内容 ●

ため池の外来魚駆除を進めるとともに、その後の適正な維持管理という視点を含めた外来魚駆除の手法の研究等を行う。

● 役割分担 ●

■市民の役割

・企画参加・検討会への参加・研究会への参加

■行政の役割

・企画参加・検討会への参加・研究会への参加

・公用車協力



● 事業の成果 ●

外来魚駆除を地域と協力して実施したが、これにより外来魚問題に対する認識を地域の人間に持ていただくことができた。特に、地域の人間は「子や孫の世代まで豊かな自然を残したい」というニーズを持っているが、このニーズを満たす手法の1つとして、外来魚駆除を提案し実施することができた。

● 協働の効果 ●

外来魚問題については、行政側が問題点を認識してはいるものの、十分に対策を講じることができていない。また、行政側は画一的な視点で捉えがちであるが、地域の実情やニーズに応じ、地域の人間と一緒に考えて対策を行っていくことも必要となる。

協働事業を行ったことで、外来魚問題への対策を講じることができた。また、地域の方と協議の場を持つことで相互理解を図りつつ、協力して外来魚駆除を実施することができた。

⑪アート亀山プロジェクト



【提案の目的】

文化ただよう街づくりを推進することで、亀山市民の文化力向上を目的とする。

【提案の目的】

亀山現代美術展のような大規模アートイベントの開催。国内外から作家を呼び込み、現地滞在型制作してもらい、市民との交流をする。また、映画上映やワークショップなどの企画運営も行う。市に事務局を設置し、マネジメント等の協力をお願いする。

提案者：アートによる街づくりを考える会

相手方：文化部 文化スポーツ室

提案型：市民提案

実施年度：平成23年度

協働の形態：事業協力

協議後

事業の目的

商店街等の「場」を活かしたアートによる街づくりを推進し、亀山独自の新しい芸術文化を発信することで、市民の文化力の向上を図る。

事業の内容

県下では唯一のコンペ方式をとった現代アート展「アート亀山2011」の開催、若手アーティストが亀山に滞在し制作発表する「アーティスト イン レジデンス亀山」の実施。これらの開催実施で、多くの市民と交流することにより、現代アートへの理解を深めてもらう。

役割分担

■市民の役割

- ・ポスター、チラシ、DMの作成・アーティスト滞在時の対応
- ・事業開催・記録誌作成

■行政の役割

- ・ポスター制作支援・広報・事業協力・記録誌作成支援



事業の成果

本協働事業は、多数のメディアに取り上げられ、他市町からも注目を集めた。多くの作家が訪れて現代アートを展示することで、作家と商店街の方々との交流が生まれ、徐々に現代アートが受け入れられるようになった。また、実行委員会に協力してくれる方々が増えつつあり、新たな文化への興味を持っていただく機会となっている。

さらに、アート亀山に出展してきた亀山出身の若い作家が個展を開き、新聞に掲載され注目を受ける等、文化の担い手を育成する場にもなっている。

協働の効果

市と団体、作家と商店街の方々など、人々が交流話し合う機会を大切にする事で、次回のアート亀山を一層良いものにできると感じた。

市民力の取りまとめは団体が行き、参加者への亀山市の紹介は市が行う等、それぞれの特性を活かす効果的な役割分担ができた。

⑫ 亀山の資源「みつまた」を活かした 観光検討事業



【提案の目的】

視界いっぱいに広がるみつまた群生地を資源とした観光や産業(上級和紙の原料の育成)の進行。そして里山の保全活動が目的。

【提案の内容】

みつまた花木の育成と里山の保全。
第9回みつまた祭りの実施。

提案者:みつまたを愛する会
相手方:文化部 観光振興室
提案型:市民提案
実施年度:平成23年度
協働の形態:事業協力

協議
後

● 事業の目的 ●

「みつまた」群生地を保全するための事業の資金確保や環境保全と観光(地域)振興を両立させるソーシャルビジネスの方向性を研究し、坂本地域に適したモデルプランを創る。

● 事業の内容 ●

「みつまた」を活かして、観光をメインとした多角的な地域おこしを検討し、試行や検証を通じて、モデルプランづくりを行う。

● 役割分担 ●

■ 市民の役割

- ・企画参加・検討会への参加・資源調達と管理
- ・イベント準備

■ 行政の役割

- ・企画参加・検討会への参加・公用車協力・広報



● 事業の成果 ●

10年前から続けられてきた、早春の地域のお祭りである「坂本みつまた祭り」が1日だけの「ふるまい型のお祭り」から健康志向を重視した、都市部の人にも田舎の良さを体験していただく「みつまたの森ウォーキング」という「参加型の週間行事」へとリニューアルされた。これは、市民と行政が話し合い、会議を重ねて行く中で実現されたことが協働事業の成果である。

● 協働の効果 ●

会議を重ねることにより、様々な可能性を生み出すことができた。また、先進地の視察など、市民団体だけではコストがかかるところだが、協働事業で行うことにより、費用面でも助かることがあった。イベントの開催にあたっては、しっかり役割分担をして開催することができた。さらに、市役所の専門のセクションと関わりを持つことにより、的確なアドバイスが受けられた。

おわりに

私たちの生活しているまちを安心・安全で住みよいまちにしたい、そのための協働のまちづくりは、みんなの共通の課題です。

亀山市の協働とは、「市民が互いに、また市民と行政が、それぞれの持つ特性を活かしながら、役割分担・連携・補完・協力を図り、住みよいまちにするという共通の目的に向かって、対等の意識で共に取り組むこと。」「協働の理念」です。そして、協働を具体的に実践するのが、“協働事業提案制度”です。

これまで、多くの市民活動団体等と行政が、それぞれの立場において、事業実施に向けて計画段階から実施、検証を行ってきました。協議においては、互いに想いをぶつけあい、時には想いが通じず、なぜ解ってもらえないのかというジレンマに陥りながら、時間はかかりましたが、何とか相手を理解し事業を作り上げてきました。

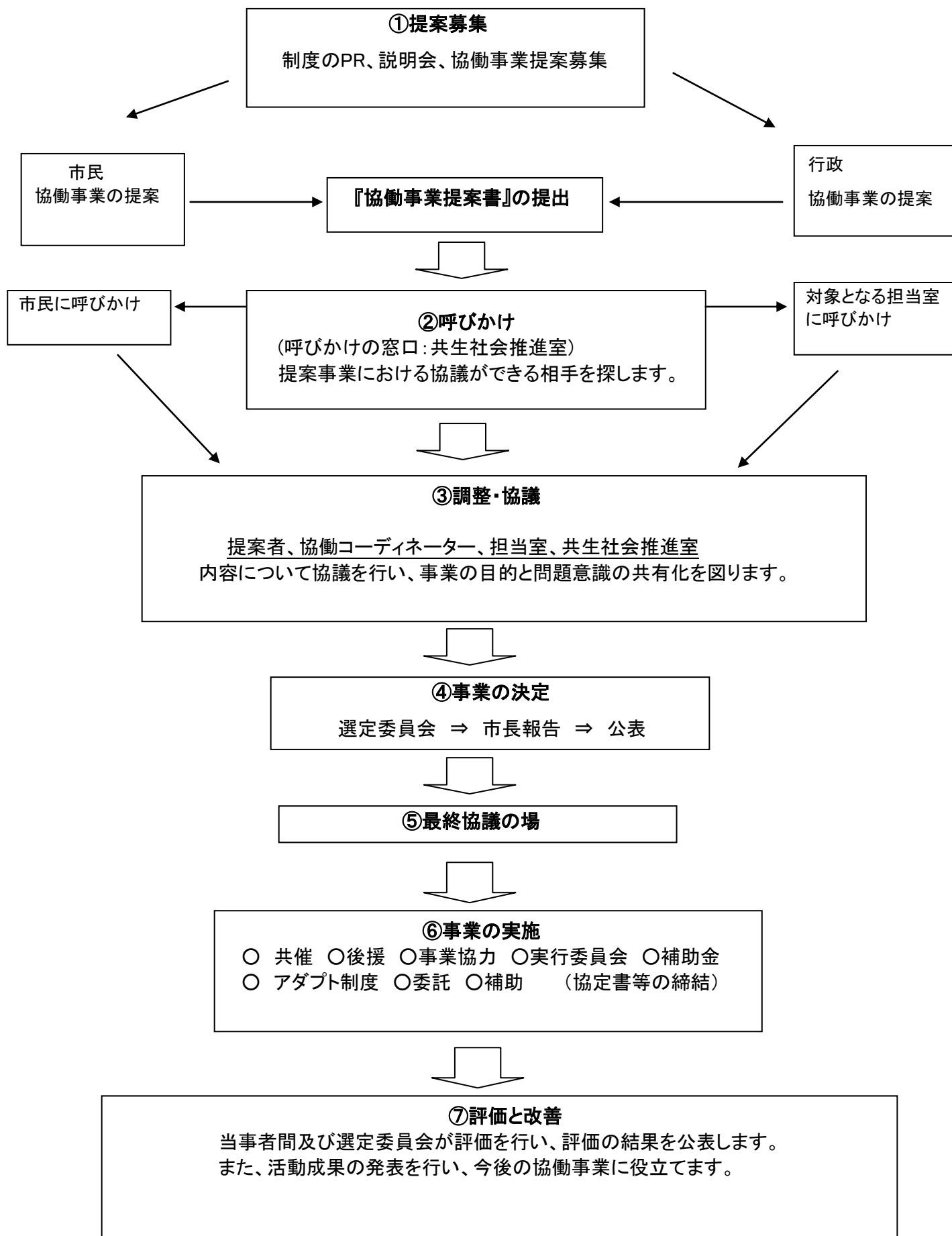
産みの苦しみを経て作り上げた事業は、これまで、市民単独、また、行政単独ではできなかったものばかりで協働によってこそ実現出来たといえます。

これからも、多様な主体が、それぞれの持つ知恵や情報などを出し合って、ともに魅力あるまちづくりに向けて取り組んでいけるよう、この事例集により、協働に対する理解を深めていただき、協働を身近なものに感じていただき、協働の更なる推進を期待するものです。

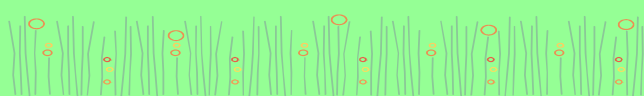


報告会の様子

【資料】 協働事業提案制度のフローシート(流れ)



亀山市協働事業事例集



市民文化部 文化振興局 共生社会推進室

電話 0595-84-5066

FAX 0595-82-9955

Email: kyoseisyakai@city.kameyama.mie.jp